佐野市景況レポート

平成26年7～9月期

佐 野 商 工 会 議 所
〒327-0027　佐野市大和町 2687-1
TEL 0283 (22) 5511　FAX 0283 (22) 5517
HP　http://www.sanocci.or.jp
E-mail s-cci@sanocci.or.jp
調査協力：佐野市あそ商工会

佐野市景況調査報告
（平成２６年７～９月期）

佐野市内の建設業・製造業・商業・飲食店・サービス業２９０社を対象に調査し、２００社（回答率６８．９％）から回答がありましたものを取りまとめたものです。

《　概　況　》

消費増税の影響、コストの増加等より景況感に悪化？

先月、北陸 3 県の企業訪問の機会があり、富山県高岡市の仏具製造企業「能作」を訪問した。高岡市は人口 17 万人、伝統工芸「高岡銅器」の産地であり、佐野市の「天明鋳物」と類似性のある地方都市です。（株）能作は、社員数 98 名の仏具・インテリア雑貨等の鋳物製造・販売業であり、伝統工芸の技術をもとに、「素材とデザイン」をキーワードに現代のライフスタイルにも溶け込む製品作りをおこなうユニークな企業です。能作克治社長は、家業を継ぎ 18 年間職人として現場を経験した後、旧態の流通経路が伝統産業の不振原因と考え、直接市場に働きかけた。市場との対話、素材・デザイン性を重視した結果、現在では、三越本店、パレスホテル東京への出店、イタリア・ミラノに代理店を置くなど世界ブランド化を試みるまで成長した。最近では、医療品製造の免許を取得し、非酸化・殺菌性の高い錫の特性を生かした「脳ベラ」等の医療器具開発もおこなっている。能作社長の方針は、「①諦めないで続ける、②過ぎ去ったことは考えない、③常にオープンでいる、④仕事を楽しむ、⑤ポーカーフェイスであわてない、⑥地域社会に貢献する・・」である。企業成長のヒントは、社長のポジティブな方針にあるように思えた。

さて、日銀短観（平成 26 年 9 月調査）では、大企業の業況判断 DI 指数 13（前期比▲3）、中小企業の業況判断 DI 指数 0（前期比▲2）と、大企業は比較的高い指数を維持しているが、中小企業とともに悪化している。先行きは、大企業は 14（前期比+1）、中小企業は▲1（前期比▲1）と対照的であるが、消費増税導入前の 3 月期と比較すると、ともに慎重な見通しとなった。

佐野市景気調査概況（平成 26 年 7～9 月期）は、全業種業況 DI 指数▲14.1、前期（4-6 月期）比▲1.5 ポイントの業況悪化となった。利益 DI 指数（7-9 月期）は▲27.5、前期比▲6.3 と業況 DI に比べ悪化幅が大きくなった。また、売上高 DI 指数（7-9 月期）は▲14.3、前期比▲1.9 の悪化、製品・商品在庫 DI 指数（7-9 月期）は 6.3、前期比+2.9 の増加と景況感は悪化している。

今後 3 ヶ月間（平成 26 年 10～12 月期見通し）の全業種業況 DI 指数は、▲8.7、前期比+2.0 と改善を予想する。これは、予想売上高 DI 指数（10-12 月期）は▲3.9、前期比+6.0 の改善によるものであるが、予想仕入価格 DI 指数（10-12 月期）は 23.1、前期比+1.9 と仕入価格の上昇を予想していることから、売上の改善予想に比べ業況感は低い。

消費増税の価格転嫁状況の調査を前回（4-6 月期）と同様に実施した。7-9 月期の調査結果は、前回と同数であり、販売価格への転嫁がなお進んでいないことがうかがえる。

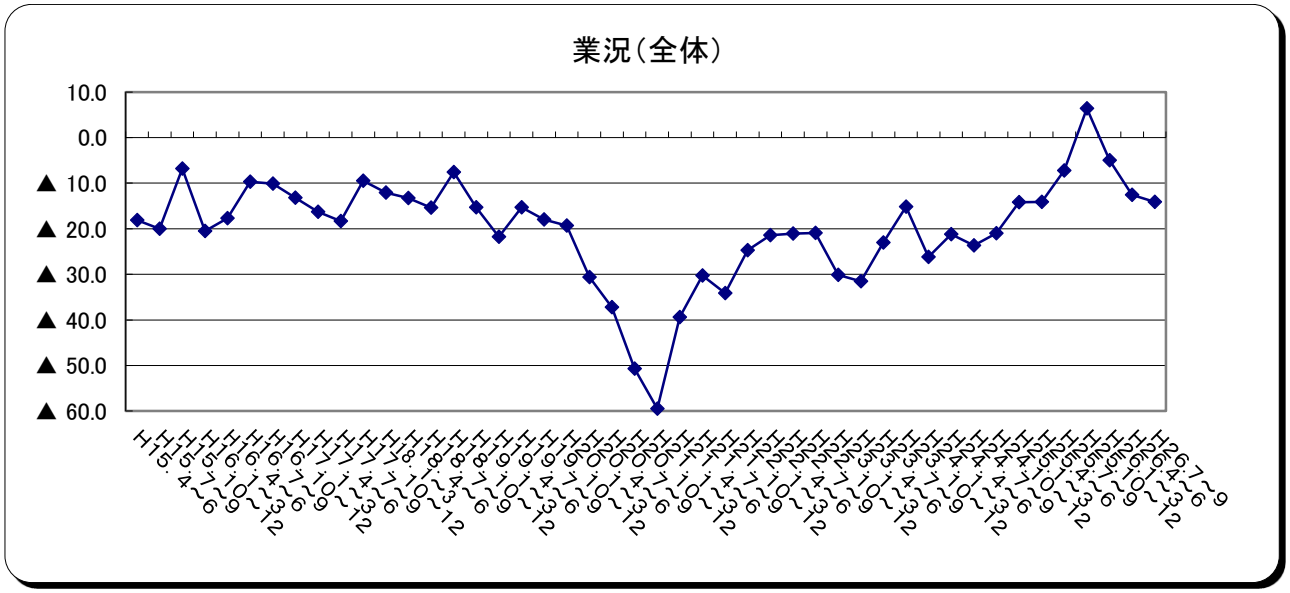
調査協力：ＯＫコンサルティング　代表　岡野　清（中小企業診断士）

☆　業況について

全業種 DI 指数▲14.1、前期比 1.5 ポイント悪化

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①その他の製造業 20.0 ポイント、②建設業 12.5 ポイント、③繊維品製造業及び卸売業 0.0 ポイント、⑤機械・金属製造業▲10.3 ポイント



☆　原材料仕入価格・仕入価格について

全業種 DI 指数 25.7、前期比 3.3 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

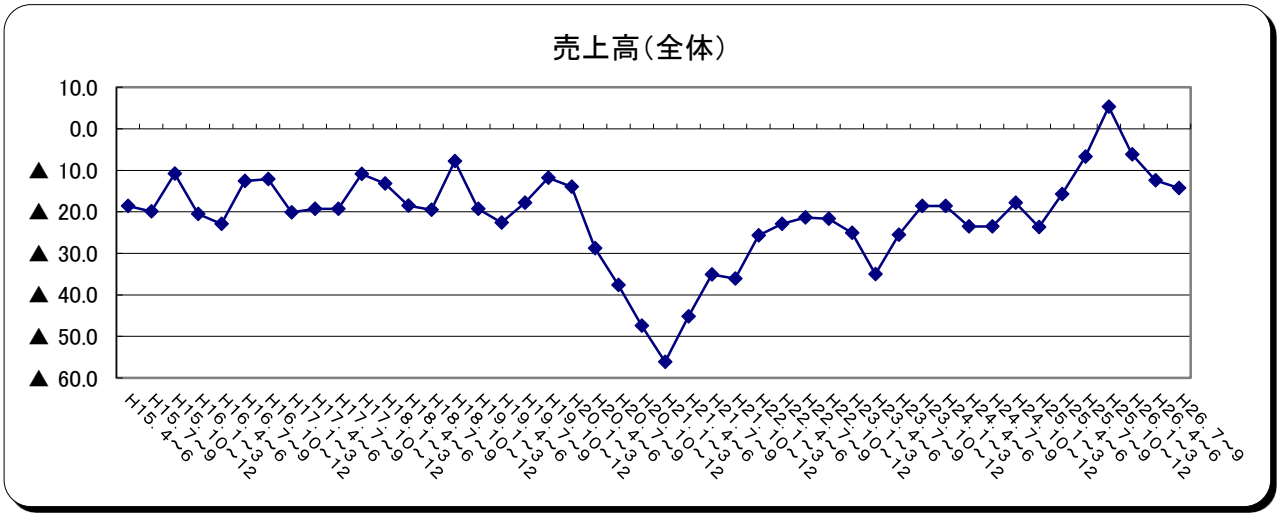
①飲食店 56.8 ポイント、②繊維品製造業 39.1 ポイント、③小売業（飲・食料品）34.9 ポイント、④食品製造業 34.4 ポイント、⑤サービス業 29.4 ポイント

☆　売上高について

全業種 DI 指数▲14.3、前期比 1.9 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①建設業及び小売業（飲・食料品）0.0 ポイント、③設備業▲7.7 ポイント、④卸売業▲8.1 ポイント、⑤食品製造業▲10.0 ポイント

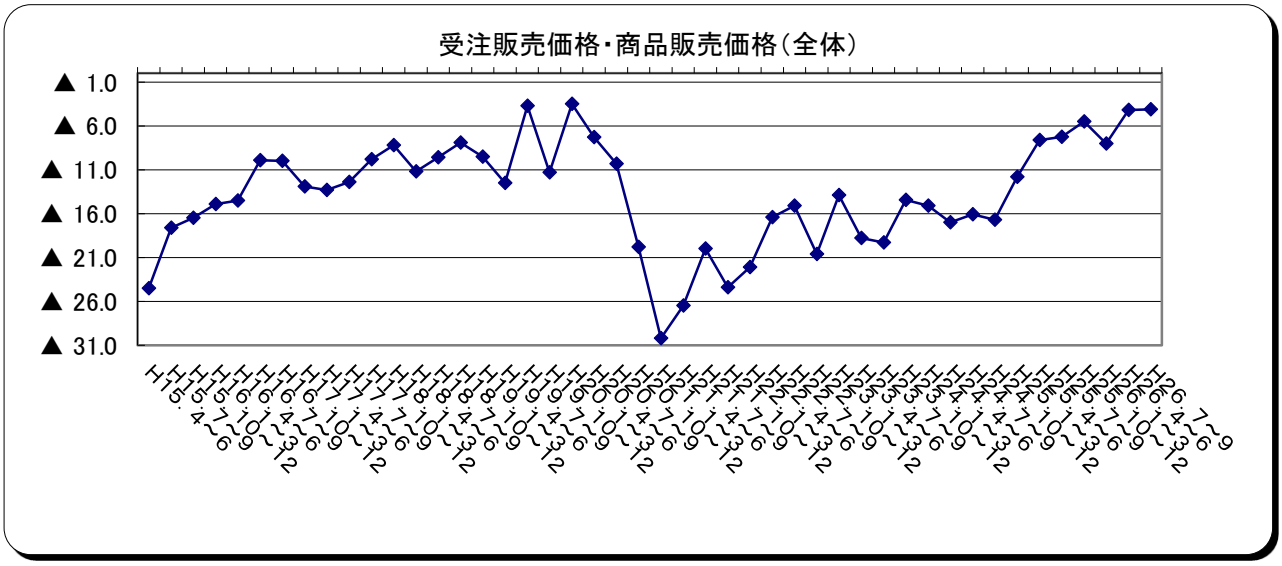


☆　受注販売価格・商品販売価格について

全業種 DI 指数▲4.1、前期 0.1 ポイント増加

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①建設業 18.4 ポイント、②小売業（飲・食料品）13.0 ポイント、③その他の小売業（大型店含む）5.5 ポイント、④卸売業及び繊維品製造業、飲食店 0.0 ポイント

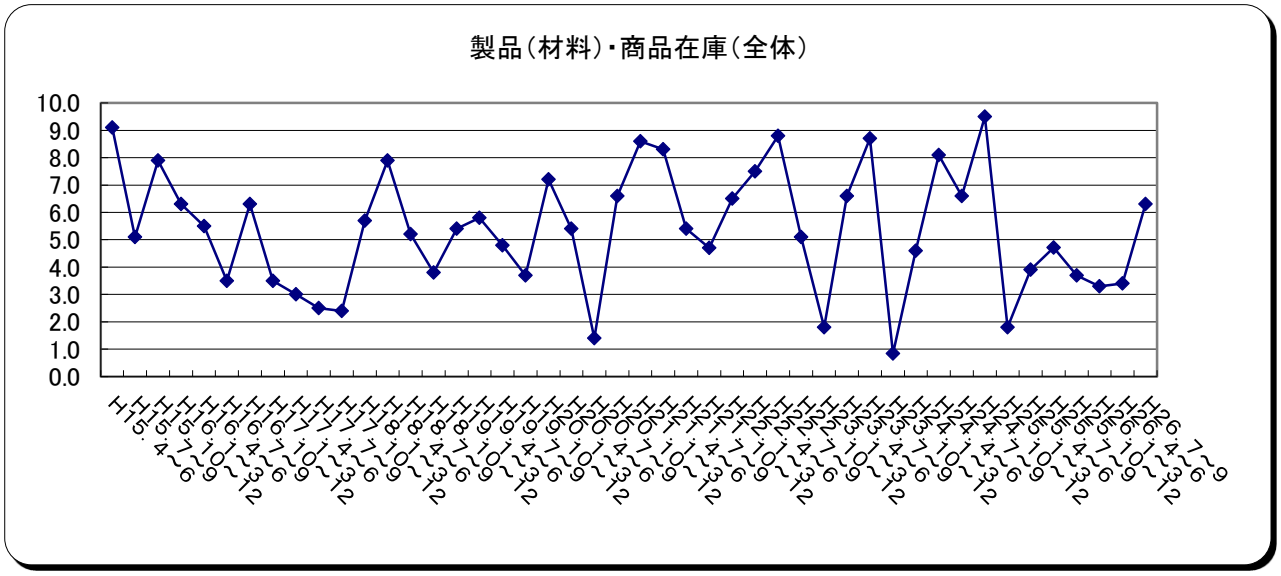


☆　製品（材料）在庫・商品在庫について

全業種 DI 指数 6.3、前期比 2.9 ポイント増加

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①化学・プラスチック製造業 23.1 ポイント、②その他の製造業 19.1 ポイント、③繊維品製造業 18.4 ポイント、④小売業（飲・食料品）6.4 ポイント、⑤その他小売業（大型店含む）5.3 ポイント

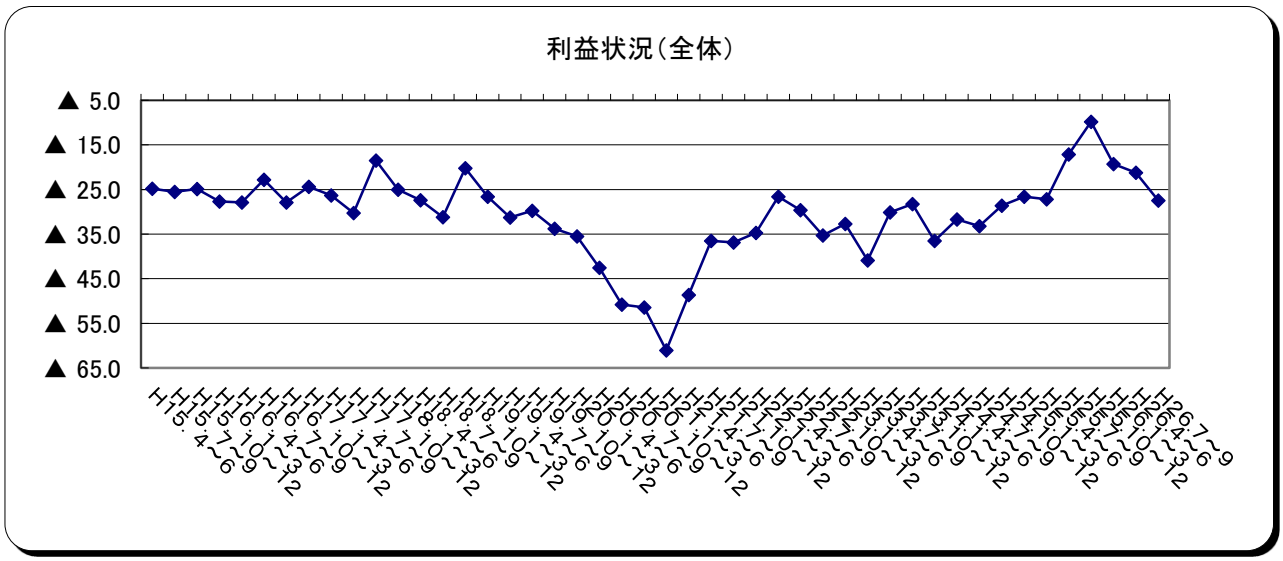


☆　利益状況について

全業種 DI 指数▲27.5、前期比 6.3 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①設備業▲7.3 ポイント、②卸売業▲15.8 ポイント、③機械・金属製造業▲18.5 ポイント、④繊維品製造業及び建設業▲19.1 ポイント

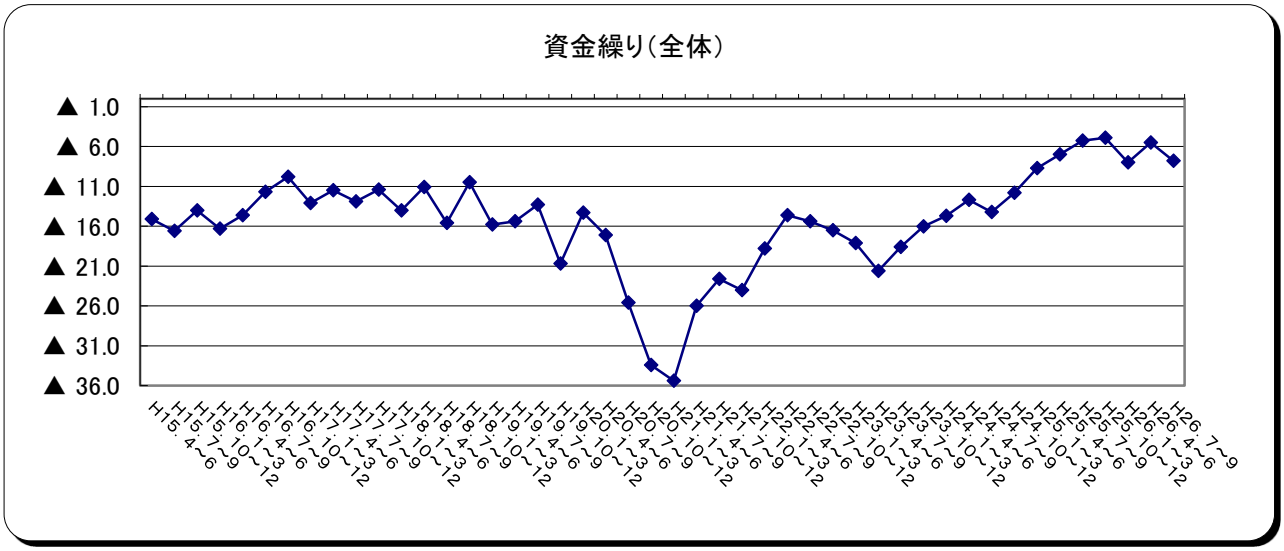


☆　資金繰りについて

全業種 DI 指数▲7.8、前期比 2.3 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①卸売業 22.0 ポイント、②建設業 12.0 ポイント、③設備業 0.0 ポイント、④化学・プラスチック製造業▲3.8 ポイント、⑤食品製造業▲4.6 ポイント

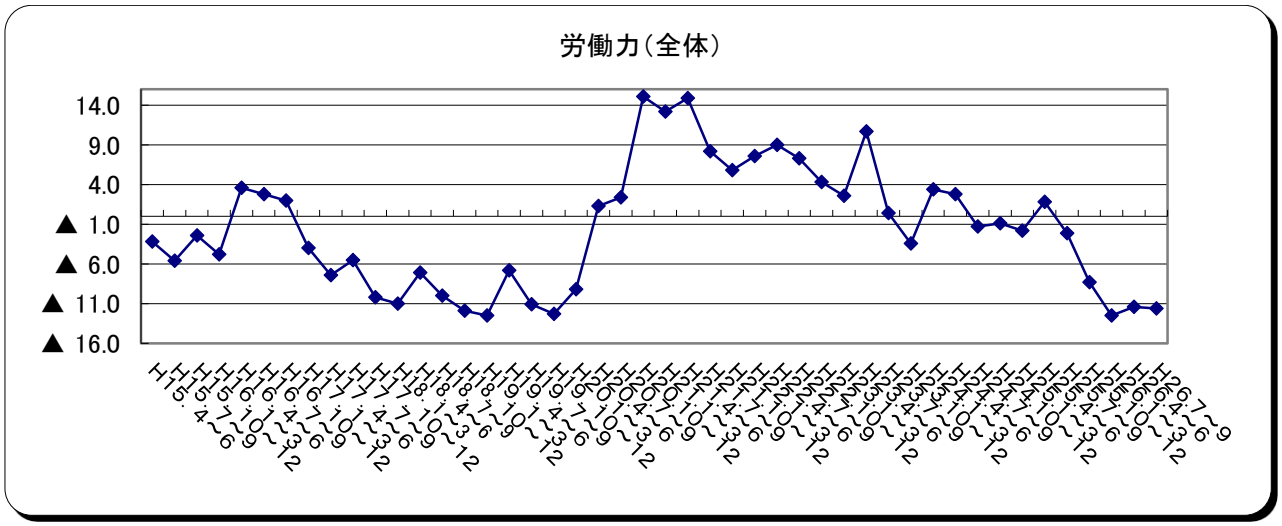


☆　労働力について

全業種 DI 指数▲11.6、前期比 0.2 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①化学・プラスチック製造業 3.9 ポイント、②その他の製造業及び繊維品製造業 0.0 ポイント、④サービス業▲5.5 ポイント、⑤小売業（飲・食料品）▲6.7 ポイント

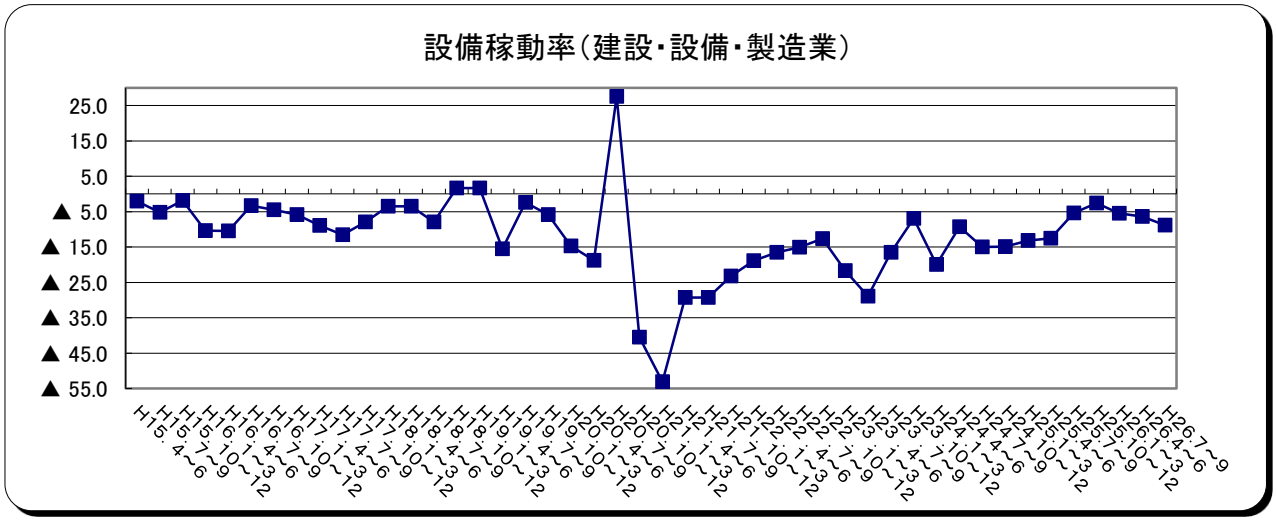


☆　設備稼動率について（建設・設備・製造業関係）

全業種 DI 指数▲8.8、前期比 2.4 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①食品製造業 10.0 ポイント、②建設業 0.0 ポイント、③繊維品製造業及びその他の製造業▲12.5 ポイント、⑤機械・金属製造業▲14.0 ポイント

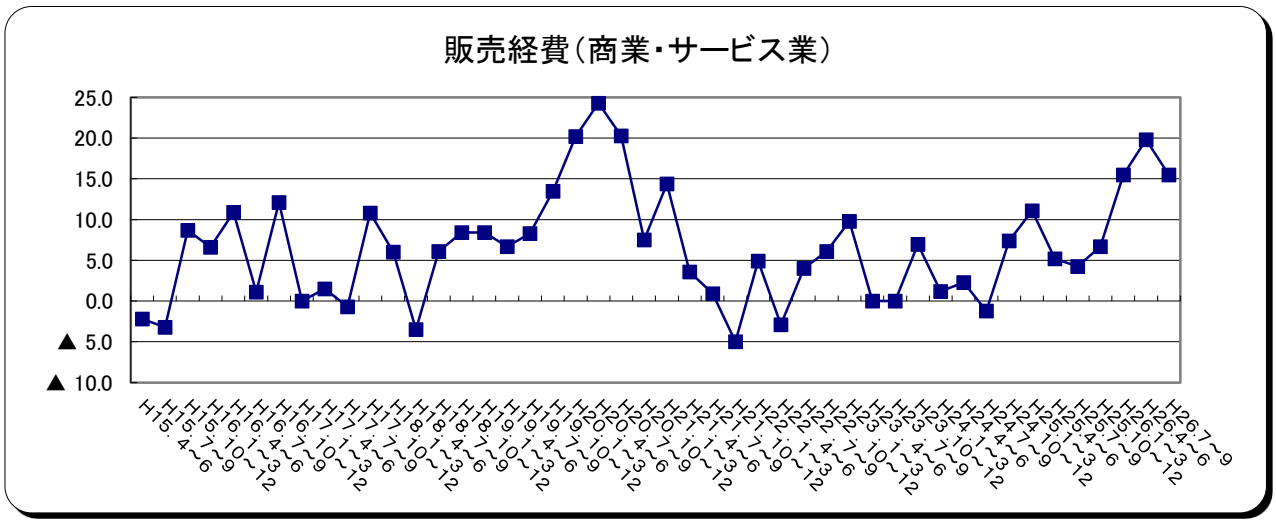


☆　販売経費について（商業・サービス業関係）

全業種 DI 指数 15.5、前期比 4.3 ポイント減少

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①小売業（飲・食料品）42.9 ポイント、②その他の小売業（大型店含む）28.3 ポイント、③卸売業 14.3 ポイント、④飲食店 0.0 ポイント、⑤サービス業▲5.5 ポイント

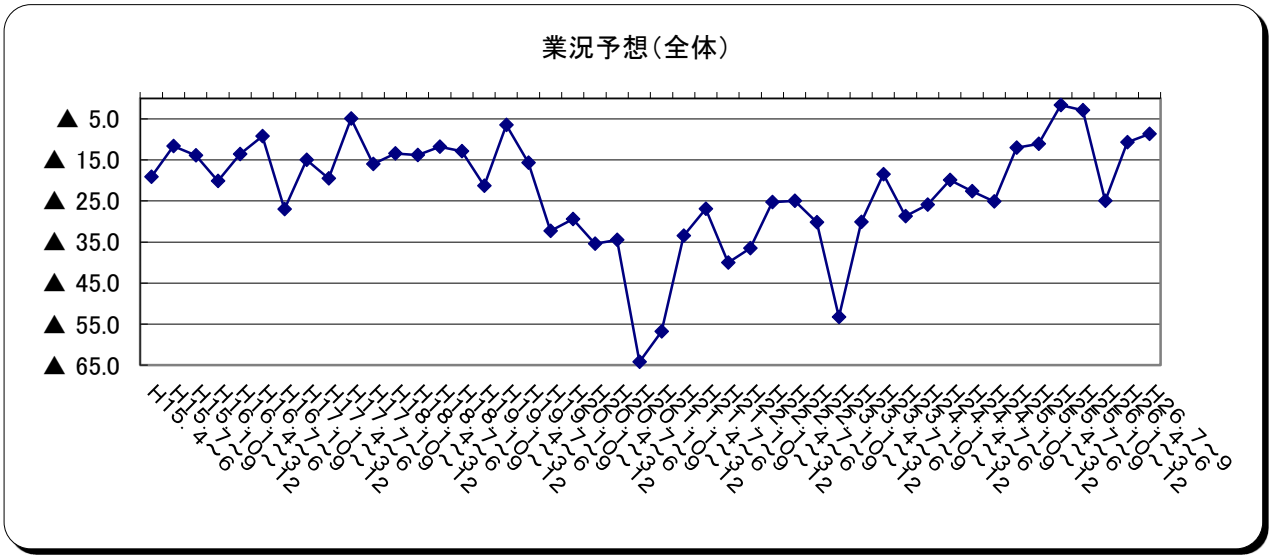


☆　今後３ヶ月間（平成 26 年 10～12 月期の見通し）の業況について

全業種 DI 指数▲8.7、前期比 2.0 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①サービス業 11.5 ポイント、②繊維品製造業 6.4 ポイント、③食品製造業及びその他の製造業 0.0 ポイント、⑤ 機械・金属製造業▲6.7 ポイント

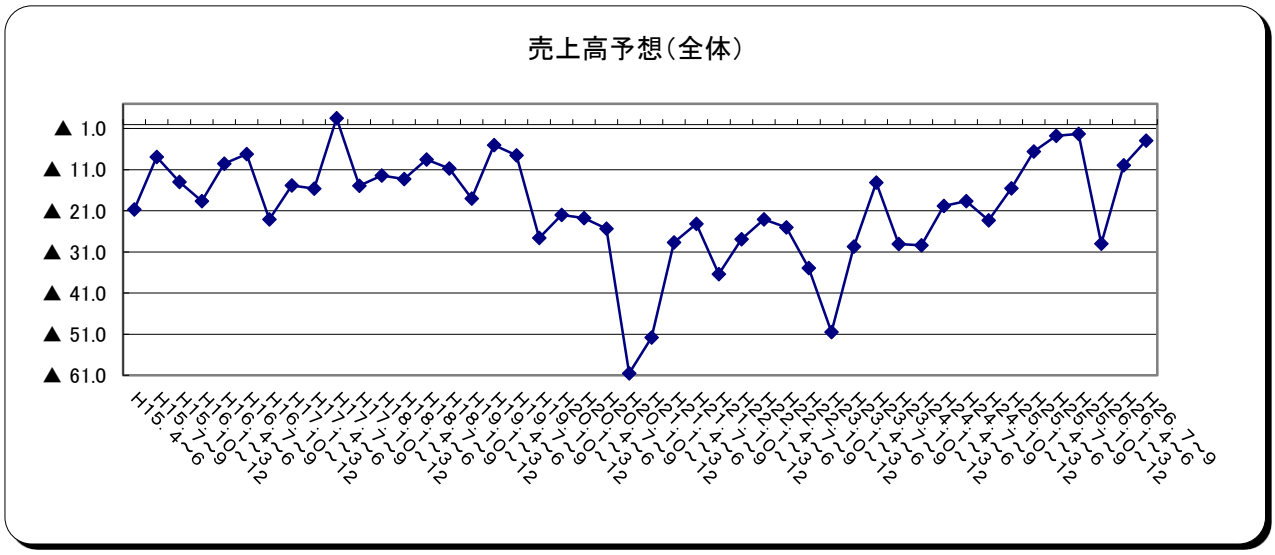


☆　今後３ヶ月間（平成 26 年 10～12 月期の見通し）の売上高について

全業種 DI 指数▲3.9、前期比 6.0 ポイント上昇

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①繊維品製造業 27.3 ポイント、②小売業（飲・食料品）7.3 ポイント、③その他の製造業 6.1 ポイント、④サービス業 5.9 ポイント、⑤食品製造業 0.0 ポイント

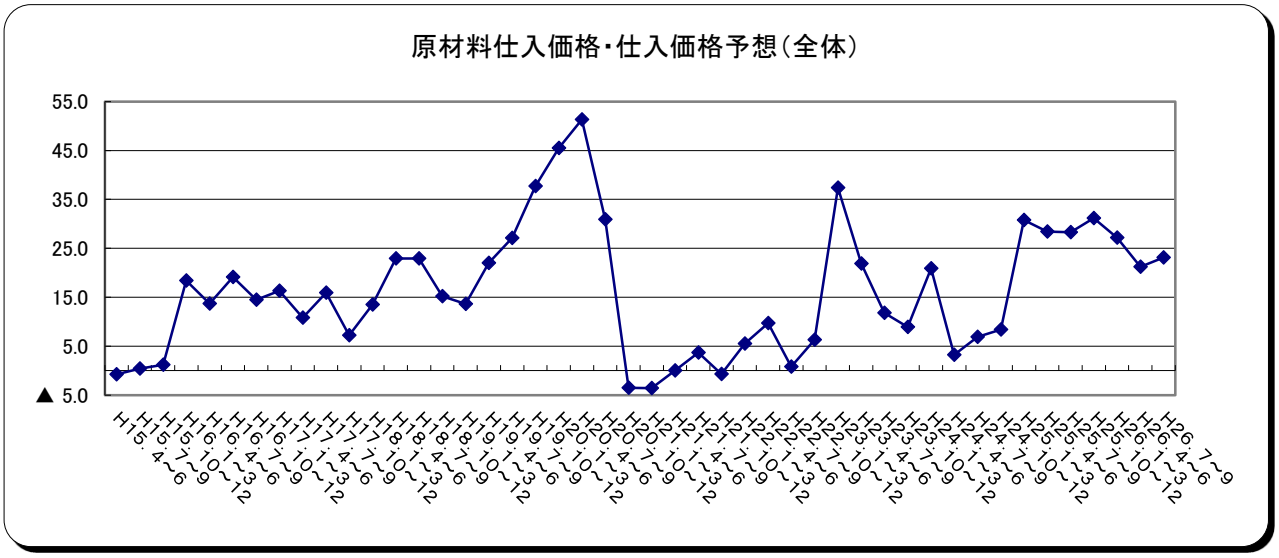


☆　今後３ヶ月間（平成 26 年 10～12 月期の見通し）の原材料仕入価格・仕入価格について

全業種 DI 指数 23.1、前期比 1.9 ポイント上昇

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①飲食店 56.8 ポイント、②卸売業 38.5 ポイント、③その他の製造業 33.3 ポイント、④建設業 31.9 ポイント、⑤食品製造業 30.0 ポイント

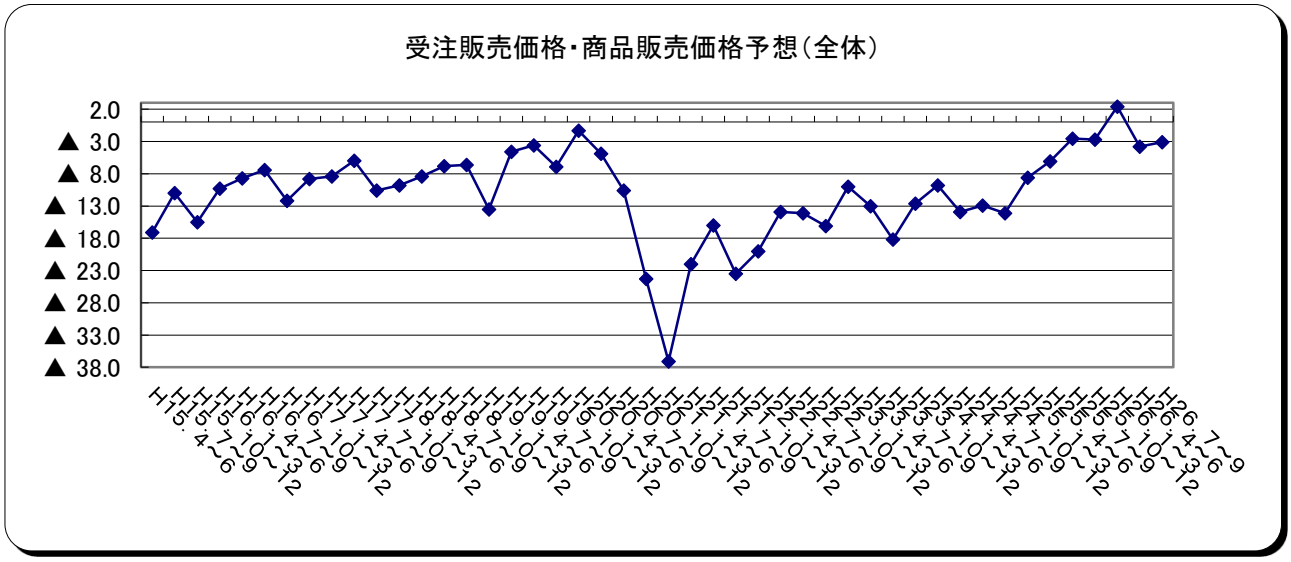


☆　今後３ヶ月間（平成 26 年 10～12 月期の見通し）の受注販売価格・商品販売価格について

全業種 DI 指数▲3.1、前期比 0.7 ポイント上昇

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

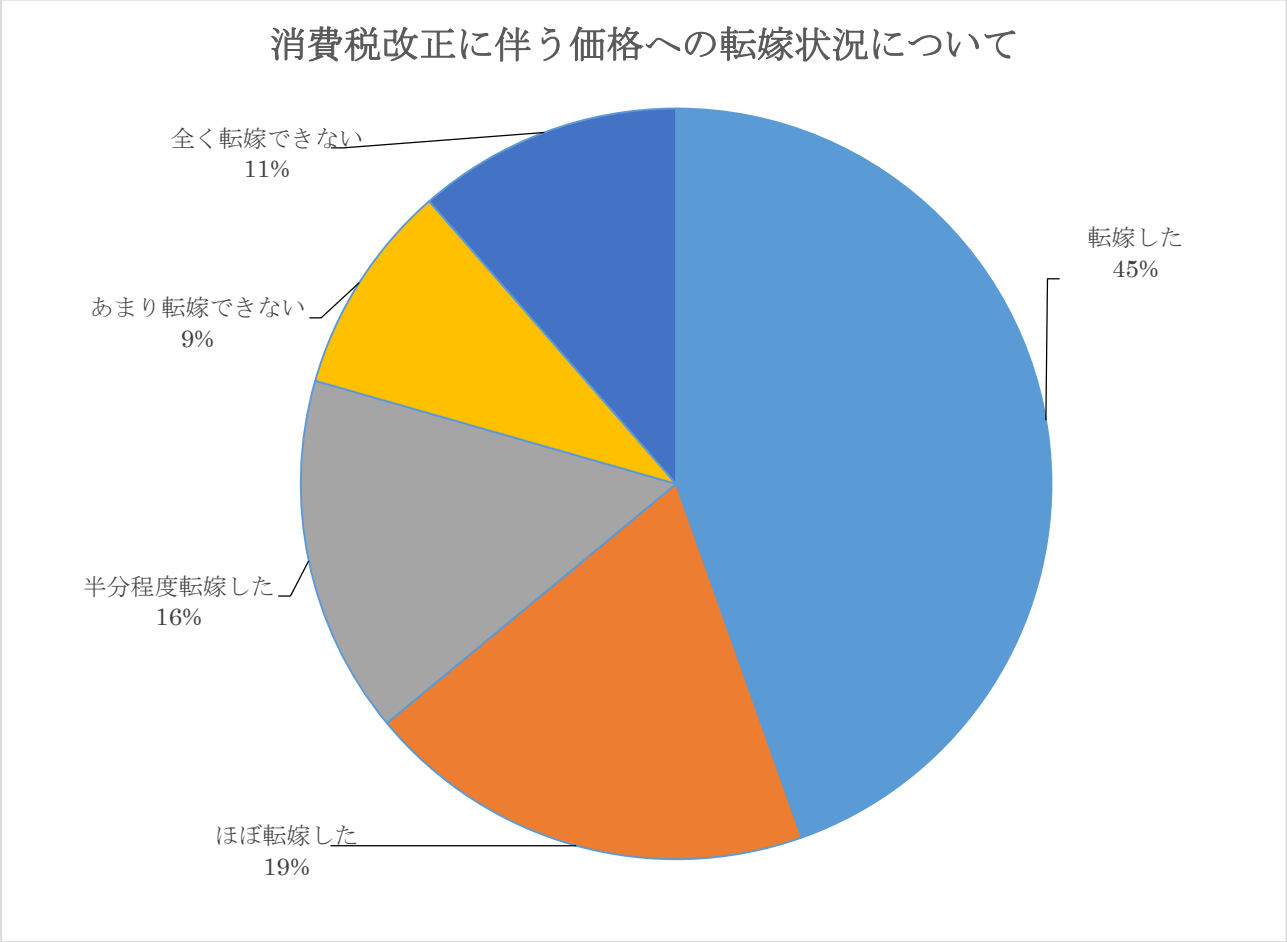
①建設業 12.5 ポイント、②小売業（飲・食料品）6.4 ポイント、③食品製造業及び機械・金属製造業、その他の製造業 0.0 ポイント



☆　消費税改正（5%→8%）（平成 26 年 4 月より）に伴う商品（製品）販売価格への転嫁について

消費税の価格への転嫁状況について	平成 26 年 4-6 月期（%）	平成 26 年 7-9 月期（%）
転嫁した	45%	45%
ほぼ転嫁した	19%	19%
半分程度転嫁した	16%	16%
あまり転嫁できない	9%	9%
全く転嫁できない	11%	11%
合　　計	100%	100%

※　第二四半期の調査結果は、前回調査時と同数であり、消費税引き上げ後、依然として中小企業における商品製品等に対する価格転嫁がなお進んでいないことがうかがえる。



☆　市内各事業所からの景況に関するコメント ☆

※景況調査にご協力いただきました事業所のうち、「景気に対するコメント欄」にご記入いただいた内容を、そのまま掲載しております。

建設業

・10%消費税には絶対反対！現実との差を見るべきである。
・アベノミクスと騒がれていますが、公共工事においては、依然として横ばい、もしくは下降ぎみです。今後増えた時に雇用の確保ができるかも不安です。
・新しい内閣に対し、地方の経済政策を活性化する様に実行して欲しいと思う！

設備工事業

・いつになったら地方の景気が良くなってくるのでしょうか？努力も限界にきています。報われる社会になって欲しい。

繊維品製造業

・原材料はまた値上げになりそうです。
・今後、原材料の価格が上るかどうか心配。
・消費税増税の反動が今期は売上利益、共に減少した今期は持直すものと期待している。
・繁忙期と閑散期の差が年々大きくなっている。人員のやりくりが難しい。
・7 月以降になっても、消費の回復が見られず、全般的には第 2 四半期も苦戦が続く。
・少しではあるが、景気が上向いてきている様に思う。

食品製造業

・販売数量は減少の傾向にあるが、価格の高い商品や、季節限定商品が売れてきている。
・夏場は毎年苦戦しておりますが、なんとか現状維持出来たかなと思います。これからの季節は食欲の秋ですから期待したいです。各イベント、ねんりんピックなど本当に期待したいですね。佐野の良いところ、おいしいものを全国に発信ですね。
・労働力不足の原因として、景気の回復傾向により有効求人倍率が 1.1 倍超となり、売り手市場を形成しており、労働条件の見直しが難しい中小企業にとっては死活問題です。
・8 月後半の悪天候による原材料（野菜類）価格高騰が影響大。また、人材不足が増々影響してきており、早くも年末アルバイトの確保に動く必要ありかと考えています。
・円安の影響により、輸入原料の仕入れコストが上昇しているため、利益が減少しています。

機械･金属製品製造業

・1 ヶ月先は見えていますが、3 か月先が不透明です。
・荷動きが悪化傾向にある。市況は原材料の高騰もあり辛じて横這っている。今後は輸入材の増加もあり、弱気に転じる懸念あり。現状維持出来れば有難い。
・5%→8%増税後の消費が減少しているのに、10%にするともっと減少するのでは！？と思います。景気上昇しているのは、ほんの一部ではないでしょうか？社会全体の景気上昇を願っています！
・中小零細は依然として厳しい情況が続いている。
・今後も現在の状況が続く見込みである。
・引き続き、ダンプ車を中心に需要が好調です。
・コストダウンの話も出てきております。原材料等が値上りしている為、とりまく環境は悪くなる一方です。

化学･プラスチック製品製造業

・電気料金が震災前と比較して 30%以上上昇し、その上昇分が製品に転嫁出来ないため内容が悪化している。
・製造原価の上昇に、不安が募る一方です。
・10 月より主材料の値上げ予定あり。

その他の製造業

・消費増税後、その影響で売上げ減少。秋口から徐々に良くなると思う。労働力は従業員の高年齢化で不足気味。
・先行不安定。
・増税を期に受注が減っているので、来年の増税は見送りすべきだと思う。

・仕事量として客先は持っているようであるが、人手不足等で仕事が出来ず、出荷は停滞ぎみである。

卸売業

・消費税増税に関して、予想よりも消費者の方々の理解が早く、価格転嫁もしやすかったように感じます。

小売業（飲･食料品）

・野菜が高い。
・日曜日には、市内を走っている車が少ない。アウトレット等と道の駅に集中している様子。市内まで何とか来てもらわなくては、売上向上とはいかない。
・仕入価格は高止まり状態で、売上も大きく下りはしないが、少しずつ減少している。
・原材料が毎月・数種類ずつ値上がりし、その度価格に転嫁する事が出来ない為、資金繰りは大変です。
・暑い夏の時期より、寒い冬の方が値上げは良い商品ですので、これから（10～12 月）は良くなると思いますが、前年同時期より悪いです。
・天候不順の影響がマイナス要因になっている。

その他の小売業（大型店含む）

・上向き傾向にある様な気はするが、まだまだ消費者の方の財布は固い気がする。しかし、以前の様な買い方とは異なり、必要と感じれば、予算よりも少し多く費用をかける様な気がします。
・最近にまた、売上が減少しております。この先、どうなるのか不安です。
・消費人口減少により、経営悪化。

飲食店

・個人店は安易に値上げが出来ないので、円安の影響を受け、この先、増々不景気になると思います。
・増税でもっと売上悪くなるのでは？
・仕入価格は上昇しているため状況は厳しいです。特に、野菜関係は全体的に上昇しています。
・良いと思ったら悪くなり、景気の良さが実感できない。
・売上げは同じで仕入価格や諸経費が高く、利益率は下落している。来年の消費税の支払いが心配だ。
・建設資材関係は受注が好調で、単価も上がっていると聞いておりますが、社員の給料のアップまでに至っていない様な気がします。

サービス業

・大企業優遇の政治、総理大臣が外遊ばかりしていて、国内の被災の地の復興をまだやっていない。総理大臣を変えた方が良いと思われる。
・8 月以後、客数が減りました。消費税 8%が消費をおさえている様だ。

佐野市景況調査　要項

1　調査時期　　平成２６年７月～９月

2　調査業種　　佐野市内に本支店を有する建設業・製造業・商業・サービス業・飲食店など２９０社（内訳：佐野商工会議所地区（旧佐野市）２００社、佐野市あそ商工会地区（旧田沼町・旧葛生町）９０社）を対象として実施した。

(1) 建設業

① 建設業	２５社
② 設備工事業	２１社

(2) 製造業

① 繊維品製造業	２２社
② 食品製造業	１８社
③ 機械・金属製品製造業	４０社
④ 化学・プラスチック製品製造業	３６社
⑤ その他の製造業	２２社

(3) 商業・サービス業

① 卸売業	１５社
② 小売業（飲・食料品）	２３社
③ その他の小売業（大型店含む）	２７社
④ 飲食店	１９社
⑤ サービス業	２２社

3　分析方法[景況動向指数（ＤＩ）による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「０」で上限限度は、＋１００・－１００となり、プラスは景況の好転、マイナスは景況の悪化をあらわしている。

ＤＩ方式は、

$$\frac{3x-3z}{3x+4y+3z} \times 100$$

により算出

ｘ：「良い」「増加」「騰貴」「過多」等の回答企業数

ｙ：「普通」「ほぼ同様」「適正」の回答企業数

ｚ：「悪い」「減少」「下落」「不足」等の回答企業数

4　主　　管　　佐野商工会議所

5　調査協力　　佐野市あそ商工会

6　お問合先　　佐野商工会議所経営支援課　　℡（代表）0283-22-5511